国語

本間　里彩

学習過程を循環し，往還することを通して言語生活と言語活動をつなぐ国語科の学習

Ⅰ　国語科研究の方向性

１　主題設定の理由

前研究では「自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動を通して，活用できる言葉の力を育てる国語科の学習」を主題とし，「活用できる言葉の力」の獲得に向けた探究型の学びについて研究を進めました。目的意識をもち，学びに向かう力を高める言語活動の設定はもとより，主に「読むこと」において，一つ一つの叙述に目を向けながら書き手の意図に迫ることで，汎用的な言葉の力の育成に資する成果を上げることができました。

現行学習指導要領においては，「学びに向かう力，人間性等」を原動力とし，「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」とが相互に関連し合いながら育成される必要性について述べられています。この実現に向け，言語活動の充実を踏まえた言語能力の育成，一層の授業改善が求められています。

竜田(2014)は，「国語教育が言語生活と言語活動をつなぐ営みである」と述べ，学習者の目的意識や，国語教室と言語生活の結び付きの希薄化など，これまでの課題を乗り越えていくための国語教育を提唱しています。言語能力は全ての教科等，そして生活の基盤であることを考えると，学習過程が国語科における言語活動の中だけではなく，児童一人一人の言語生活とつながるところから出発し，様々な学習活動を経た後に，自身の言語生活に帰結するとの認識に立つことが大切です。また，その循環性のある学習過程は，不可逆的なものではなく，行きつ戻りつ，時には変更を加えながら進んでいくべきものであると考えます。

そこで，研究主題を「学習過程を循環し，往還することを通して，言語生活と言語活動をつなぐ国語科の学習」と設定しました。「言葉による見方・考え方」を働かせて問いを立ち上げ，試行錯誤しながら言語活動を遂行することを通して，児童一人一人が学びの価値を考えたり，新たな目標を見いだしたりする姿を目指します。

２　目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

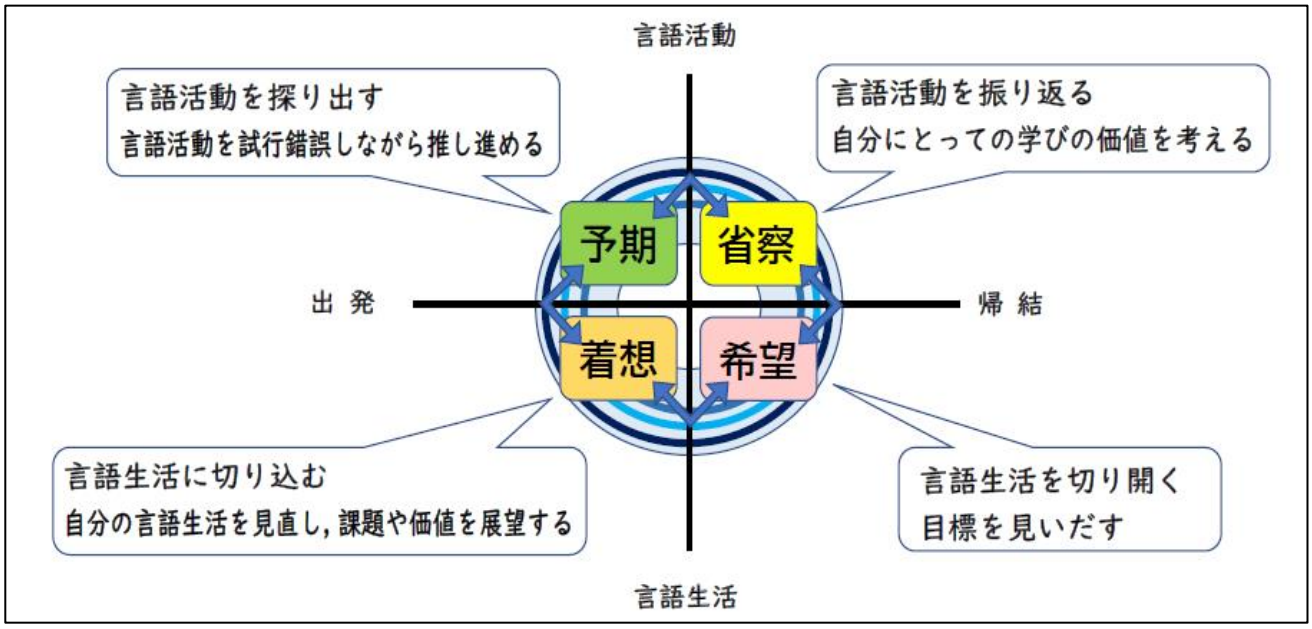
国語科における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって，探究することの価値	言語生活と結び付けるなどして課題や問い，価値を見いだし，試行錯誤しながら言語活動を遂行する。また，そこから新たな学びの価値や目標を見いだす。
②人と関わり，協働して探究することの価値	他者と対話し異なる視点に触れることを通して，自らの言語生活を内省したり，問いを立ち上げたりする。また，新たな視点を取り入れ，よりよく学んだり，自他の考えのよさに気付いたりする。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	「言葉による見方・考え方」を働かせ，広く言語生活に活用する。

Ⅱ　研究内容の具体

１　「探究型の学び」のイメージ

竜田（2014）は〈着想すること〉から出発し，〈予期すること〉〈省察すること〉に展開して，〈希望すること〉へ帰結するという四相で，国語教育の流れを提唱しています。竜田（2014）の図を踏まえ，本校国語科の「探究型の学び」のイメージを以下のように押さえました。



単元の目標と，児童の言語生活とをつなげる視点をもち，言語活動へと導くことで，学習過程の循環及び往還が機能します。言語活動で身に付けた力を，国語科の学習だけでなく，再び言語生活に帰結することで，児童一人一人が自らの学習の価値や，新たな目標を見いだし，言葉の力を高めていく姿を目指しました。

２　「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

「令和の日本型学校教育」においては，「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実させていくことが重要とされています。国語科では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を以下のように押さえました。

◆国語科における「個別最適な学び」
　言葉による見方・考え方を働かせて自らの言語生活を振り返り，試行錯誤しながら言語活動を遂行したり，学習過程を見直したりすること。

◆国語科における「協働的な学び」
　他者の言葉による見方・考え方に触れることを通して，自分のそれを見直したり，豊かにしたり，自他のよさを見付けたりすること。

これらの実現に向け，特にポイントとなるのがイメージ図における〈着想〉や〈予期〉であると考えました。なぜなら，児童一人一人が言語生活と結び付けて言語活動を展望し，めあてをもったり，試行錯誤しながら言語活動を推し進めたりする過程にこそ，学習の個性化や，指導の個別化が図られると考えたからです。また，それらの過程や，充実した言語活動遂行のためには，協働的な学びの視点が不可欠であると考えました。

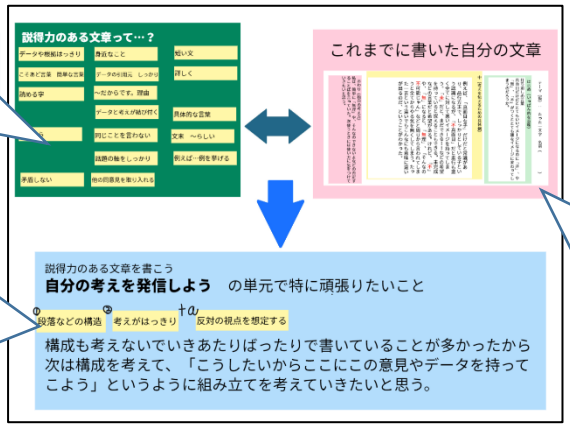
そこで，言語活動と言語生活をつないだり，試行錯誤を支えたりするための手立てを具体化しました。個別最適な学びと，協働的な学びの両者が相互に補完し支え合い，往還することで，児童一人一人が学びを豊かにしていくための授業デザインについて，研究を進めました。

○言語生活の振り返り

自分の生活や言語活動履歴，既習の俯瞰教材と見比べるなど，言語生活と単元の目標とを照らし合わせ，言語活動や身に付けたい力を展望する。

単元で身に付けたい力について見通しをもつ
「説得力のある文章って，何だろう。」

言語活動を展望する
「自分の主張をはっきりさせて，構成を考えながら書こう。そして今回は，反証を示すことを目標にして書こう。」



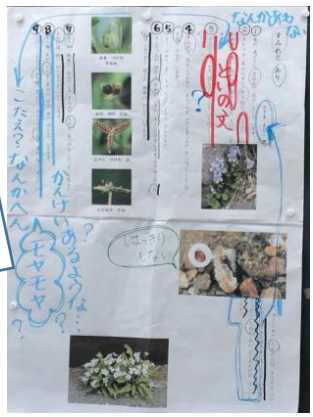
自分の言語活動履歴と見比べる（ICT を活用）
「これまで自分が書いた文章を見返してみると自分の考えがはっきりしないな。説得力のある文章のカードと見比べると，予想される反対意見や，それに対する反論がないな。」

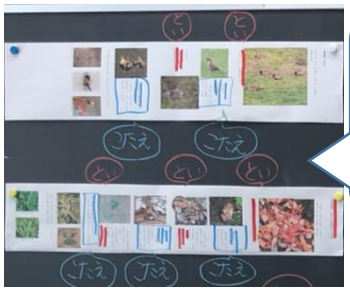
【6年】自分の考えを発信しよう（書くこと）

○着眼点の焦点化

着眼点を焦点化し，個々の言語活動遂行過程における試行錯誤を支える。また，それを顕在化しながら言語活動に取り組むことで，協働する相手もその視点に沿ってアドバイスをし，自分の見方を豊かにすることができる。また，教師からの個に応じた指導の充実も図ることができる。

文章の一部を削除し焦点化を図る
「問いの文に対する答えはどこだろう。」
「問いの文の後ろを読んでも，問いの文と合わせて読むとなんか変だよ。」





既習教材と比較
「今までの説明文では，問いの文のすぐ隣に答えの文があったのに」

【2年】すみれとあり（読むこと）

気もちが分かる言葉
文のおわりの言い方（～です。／～ます。／～だ。）
話した言葉は「かぎかっこ」＋行をかえる
「。」で文をみじかく切る
「、」をうつ
ならったかん字をつかう
字のぬけ　うちまちがい
小さく書く字（っ、ゃ、ゅ、ょ）
くっつきの「を」「は」「へ」

これに気を付けて書いたり見直したりしよう！

あ，ここの「お」は「を」が正しいよ。

僕は「,」に気を付けたけど，「を」の使い方はどうかな。

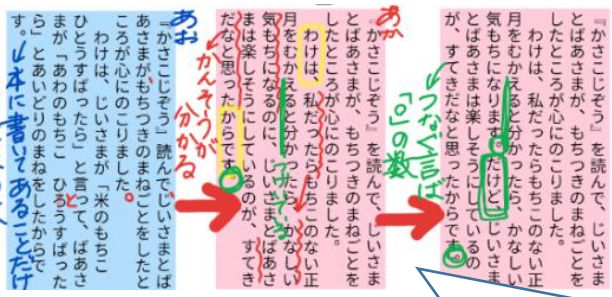
「を」や「は」の間違いを正して書けたね。

【2年】こんなことができるようになったよ（書くこと）

○試行錯誤の可視化

言語活動の試行錯誤の過程を可視化することで，行きつ戻りつしながら，更なる試行錯誤を支える。さらに，自他のよさを見付ける手掛かりともなる。

【2年】「みじかい言葉で」（書くこと）



【2年】「お話びじゅつかん」を作ろう（読むこと）

上書きせずに試行錯誤の過程を残す（ICT を活用）

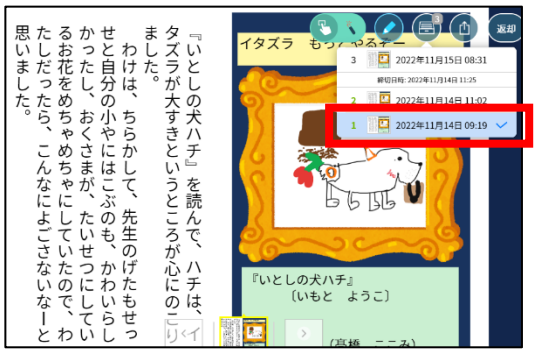
試行錯誤過程の内言を可視化し，その在り方を知ったり，意図やよさを考えたりする

３　子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

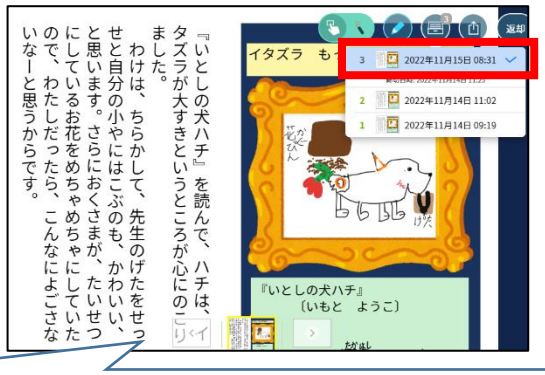
これまでの研究では，児童が言語活動を通して単元で身に付けた力について振り返り，価値を見いだす「省察」を大切にしてきました。それに加え，「省察」を言語生活に帰結することで，新たな目標を見いだしていく「希望」につなげる視点をもつことが必要です。児童が学びの価値を実感し，一人一人の言語生活において目標を見いだしていくための振り返りの工夫や視点について研究を進めました。

○ICTを活用した電子ポートフォリオ

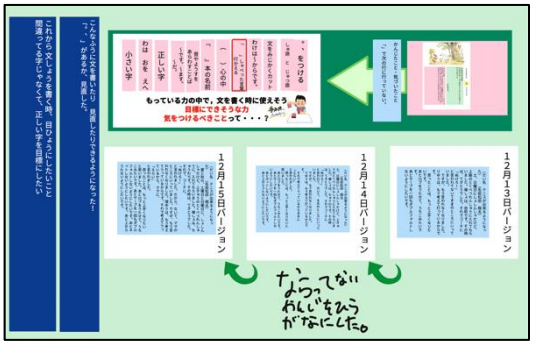
ICTを活用し，自分の言語活動履歴等にアクセスしながら振り返る。



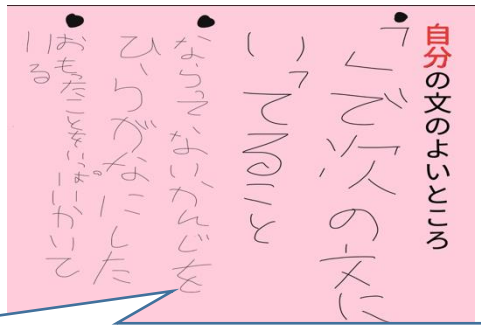
【2年】「お話びじゅつかん」を作ろう（読むこと）



「昨日のものから，どんなところが変わったかな。そうした理由や効果は…。」
「心に残ったわけを，『～からです』を使って伝えることができるようになった。」
「文を区切って，つなぐ言葉を使う力が付いたな。最初の文より読みやすいよ。」



【2年】こんなことができるようになったよ（書くこと）



単元の終末(12 時間目)での振り返りでは，学習過程における変遷を踏まえ，自分の文のよさ，ひいては学習の価値を見いだしている。

○ロングスパンでの振り返り

身に付けた力を，他教科や日常生活のどんな場面に活用したいか目標を立てたり，単元の終末以外の場面等，ロングスパンで日常生活と照らし合わせる機会を設けたりする。

学期に１回程度のロングスパンで，学びの地図等と併せ，それぞれの単元で付いた力や，その力を日常生活のどんな場面で活用しているか，あるいはできていないか，その理由等を自身で分析する。

どんな時に「つかえた！」と かんじましたか？
たとえば声のものさしの時まなんだばしょによって大きい声や小さい声をつかって図書かんでしずかにしたりはっぴょうの時は、大きな声つかいました。

どんな時に「つかえた！」と かんじましたか？
お父さんお母さんとクイズした時○○でしょうかそれとも○○でしょうかせいかいは、○○ですなぜかというと○○だからです。という場面で使います。

どんな時に「つかえた！」と かんじましたか？
ならいごとで、分からないことがある時、「こんなこと出来るようになったよ」の、じゅぎょうでつかった主語と述語を、つかって話のしかたを出来ました。（主語と述語を、つかわないとしつ問する時、意味が伝わらないからです。）

なぜ つかわなかった・つかえなかった と思いますか？
しばらくたったらわすれるから。

Ⅲ　研究実践

２年生実践　「じゅんじょに気をつけて書こう　（『こんなことができるようになったよ』）

実践のテーマ：試行錯誤を可視化し，視点を焦点化することを通して，文章を読み返しながらよりよく書く学習

１　研究授業のねらい

本単元は，自分の成長を題材とし，順序を考えて書いたり，書いた文章を読み返してよりよい文章にしたりすることをねらいとしました。順序に気を付けて書く思考は，構想段階だけでなく，記述や推敲の段階においても繰り返し，絶えず行われるものです。同様に，間違いに気付いて正すことも，視点に沿って注意深く書いたり，文章を読み返したりする行為の中で達成されると考えます。

このことから，気を付けて書く視点を児童一人一人が焦点化することで，文章を読み返す習慣を付け，間違いを修正したり，適切な表現を見付けたりしてよりよく書くことができるようにしました。その際，今まで自分が書いた文章を見返しながら課題を見付けることで，言語生活とつながる言語活動になるよう，単元を構成しました。

また，文章を構成する過程や試行錯誤の過程を可視化したり，他者との協働を位置付けたりすることで，児童の書く営みを支えることができると考えました。構成や記述，推敲を一過性のものとせず，学習過程を行き来する児童の姿を目指しました。

２　単元の指導計画（13時間扱い）

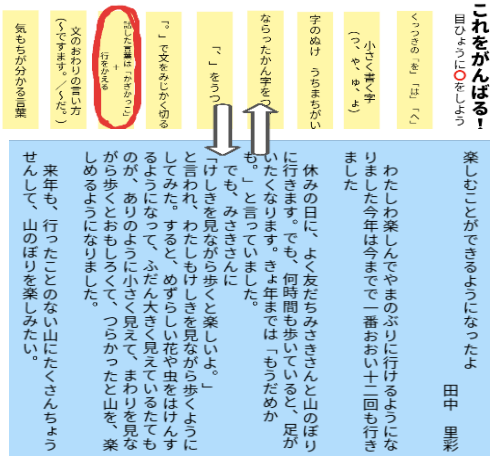
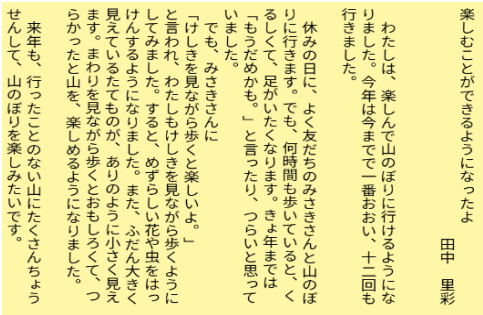
時間	学習内容・学習活動	児童の姿・評価規準及び方法 ※太枠＝記録に残す評価
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ （本時） ⑩ ⑪ ⑫ ⑬	◇単元の見通しをもつ。 ２年生になってできるようになったことを，文章で伝えよう。 ◇言語生活を振り返りながら，単元の目標をもつ。 どんなことに気を付けて文章を書けるようになりたいかな。 ・デジタル教科書との比較や，自分が書いてきた文章から課題を見付ける。 順序を考えながら文章の組み立てを作ろう。 ◇組み立てメモを作る。 ・したこと話したこと，感じたことなど書きたいことを詳しく想起する。 ◇組み立てメモを整理し，組み立て表を考える。 ・書く順序を考えながら「はじめ・中・おわり」に整理する。 ◇出来事や順序を詳しくしながら，組み立て表を見直す。 ・友達と尋ね合って，自分の組み立て表を見直す。 ◇組み立て表や，気を付けることを確かめながら文章を書く。 組み立て表や目標を確かめながら，文章を書こう。 ・改行や段落の作り方に注意して書き，それぞれの時間の版を残して蓄積する。 ・版を見ながら，目標への到達度等を確かめる。 書いた文章を読み返したり，書き直したりしよう。 ◇書いた文章を声に出したり，友達と読み合ったりして繰り返し読み返す。 ・第２時で決めた視点に沿って読み返し，書き直す。 ・相手が気を付けた視点に沿って読み合う。 ・アドバイスされたことなどを踏まえて書き直す。 学習全体を振り返り次の目標を立てよう。 ◇完成した文章を友達と読み合い，感想やよいところを伝え合う。 ◇自分の言語活動の過程や，友達からの感想を踏まえ，できるようになったことや，自分の文章のよいところを見付ける。 ◇学習全体を振り返り，言語生活における目標を見通す。	観察・目標カード 〔態①〕日常の書くことと結び付け，自分の目標を立てたり，単元を見通したりしようとしている。 観察・組み立てメモ 〔思・判・表①〕組み立てメモを増やし，工夫した文章構成に役立てている。 観察・組み立て表 〔思・判・表①〕内容のまとまりを考えて相手に伝わるよう工夫し，組み立てメモを基に文章構成を考えている。 書いた文章の版 〔思・判・表②〕選んだ視点に沿って，文章を確かめている。 観察・書いた文章の版 〔知・技①〕正しい表記を理解し，文章を書いている。 〔思・判・表②〕選んだ視点に沿って，繰り返し文章を読み返し，書いたり直したりしている。 観察・振り返り 〔思・判・表③〕視点に沿って間違いを正したり，よいところを伝え合ったりしている。 〔態①〕繰り返し読み返し，文章を書き直そうとしている。 観察・振り返り 〔思・判・表③〕友達と文章を読み合い，感想を伝え合ったり，よさを見付けたりしている。 観察・目標カード 〔態度①〕言語活動の過程を振り返り，学習の価値や言語生活の目標をもとうとしている。

３ 本時の学習

(1) 本時の目標

焦点化した視点に沿って繰り返し読み返したり，読み合ったりすることを通して，間違いに気付くなど，よりよく書くことができる。

(2) 本時の展開（13時間扱いの９時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1　前時までの復習と学習計画の確認をする（５分） ・できるようになったことを伝える文章を書いたよ。 ・書いた文章を見直そう。	
書いた文章を読み返したり，書き直したりしよう。	
2　試行錯誤のイメージをもつ（10 分） ・「を」が「お」になっているよ。 ・目標に気を付けて，何回も読むといいんだね。 ・声に出したり，指で追ったり，印を付けたりしながら読むとよいかも。 ・そんな風に読み返して，書き直すのか。  これをがんばる！ 目ひょうに○をしよう くっつきの「を」「は」「へ」 小さく書く字（っ、ゃ、ゅ、ょ） 字のぬけ　うちまちがい ならったかん字を使う 「。」で文をみじかく切る 「」をつかう 行をかえる 文のおわりの言い方（～です。／～だ。） 気もちが分かる言葉 楽しむことができるようになったよ　田中　里彩 わたしわ楽しんでやまのぶりに行けるようになりました今年は今までで一番おおい十二回も行きました 休みの日に、よく友だちみさきさんと山のぼりに行きます。でも、何時間も歩いていると、足がいたくなります。きょ年までは「もうだめかも。」と言っていました。 でも、みさきさんに「けしきを見ながら歩くと楽しいよ。」と言われ、わたしもけしきを見ながら歩くようにしてみた。すると、めずらしい花や虫をはけんするようになって、ふだん大きく見えているたてものが、ありのように小さく見えて、まわりを見ながら歩くとおもしろくて、つらかったと山を、楽しめるようになりました。 来年も、行ったことのない山にたくさんちょうせんして、山のぼりを楽しみたい。	◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン　研究視点２ ＜試行錯誤の可視化＞ 教師の書いた文章をモデルとしながら，読み返したり，書き直したりする姿をイメージし，自分の試行錯誤に生かす。  楽しむことができるようになったよ　田中　里彩 わたしは、楽しんで山のぼりに行けるようになりました。今年は今までで一番おおい、十二回も行きました。 休みの日に、よく友だちのみさきさんと山のぼりに行きます。でも、何時間も歩いていると、くるしくて、足がいたくなります。きょ年までは「もうだめかも。」と言ったり、つらいと思っていました。 でも、みさきさんに「けしきを見ながら歩くと楽しいよ。」と言われ、わたしもけしきを見ながら歩くようにしてみました。すると、めずらしい花や虫をはっけんするようになりました。また、ふだん大きく見えているたてものが、ありのように小さく見えます。まわりを見ながら歩くとおもしろくて、つらかったと山を、楽しめるようになりました。 来年も、行ったことのない山にたくさんちょうせんして、山のぼりを楽しみたいです。
3　自分の文章を読み返し，書き直す(10 分) ・気を付けて書いていたけど，間違いを見付けた。 ・自分の目標にしたところは，ばっちりだと思うよ。	＜着眼点の焦点化＞ 注意するポイントが焦点化されていることで，読み直し，読み合い，書き直す等の試行錯誤が支えられる。
4　友達と文章を読み合い，書き直す(15 分) ・文章を短く区切ることを頑張ったんだね。 ・ここは，こんな風に書き直したらよいんじゃない？ ・自分では気付けなかった間違いに，友達が気付いてくれた。ここを書き直そう。	・ロイロノートスクールの提出箱や「送る」機能を活用して友達と文章を読み合う。
5　学習を振り返る（５分） ・目標に気を付けながら，ゆっくり何回も読んで抜けている文字を見付けたり直したりできた。 ・友達が，自分では気付けなかったくっつきの「は」を教えてくれたよ。	◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫　研究視点３－１ 〔思・判・表②〕 観察・版・ポートフォリオ 選んだ視点に沿って，繰り返し文章を読み返し，書いたり直したりしている。【Ｂ(1)エ】

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

２～４試行錯誤のイメージをもち，焦点化した視点に沿って書いた文章を読み返し，友達と読み合うことで，文章の間違い等を確かめたり，書き直したりする姿。

４　授業の実際

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

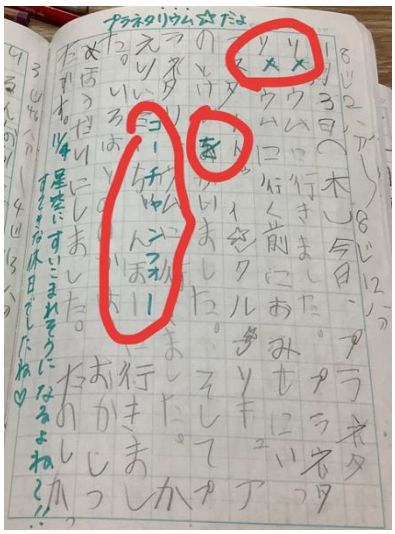
子供たちの言語活動と言語生活をつなぎ，個別最適な学びと，協働的な学びとが往還し合う学びを実現するため，単元を通して以下の３点の手立てを重視しました。

①言語生活の振り返り　②着眼点の焦点化　③試行錯誤の可視化

言語生活を振り返るためには，既習の教材や言語活動履歴，家庭学習等，広くその対象を捉える必要があります。本実践では，クラウド型学習端末（ロイロノート・スクール）や１学期より書き溜めてきた日記，その他日々の家庭学習等を見返し，児童一人一人が自らの言語生活について振り返ることができるようにしました。

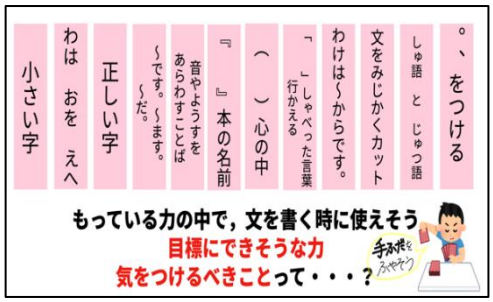
Ａ児は単元の２時間目で，教師による朱書き部分に印を付けながら，家庭学習で取り組んだ日記を振り返りました。そして「すごく字がまちがっていました」と課題点を見付け，本単元では「正しい字」で書くことを目標として設定することができました。

適切に目標を設定し，それに沿った言語活動の遂行を支えるために，今回は読点や句読点，拗音や撥音など「12の気を付けるべき観点」を例示しました。これらは，既習の学習内容や児童の実態を踏まえ，教師が設定したものです。何に気を付けて書き，読み返すのかを明確にすることで，自分の目標を常に意識しながら学習過程を充実させることができました。

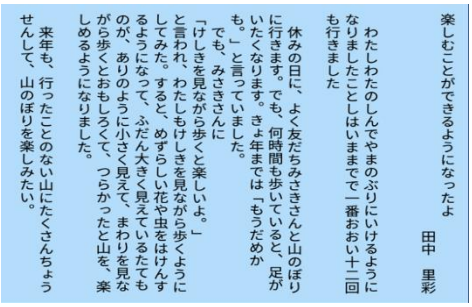


【Ａ児の言語生活の振り返り】

本時では，試行錯誤を可視化する手立てを講じることで，書いた文章の読み返しや書き直しを繰り返す児童の学びを支えました。これまでの「書くこと」の学習では，文章を書き上げることに精一杯で，推敲にまでなかなか至らないという現状がありました。そういった状況に対して本時では，教師が児童と同じテーマで書いてきた文章を提示しながら，文章を推敲する様子を可視化しました。



【本単元で焦点化した着眼点】



楽しむことができるようになったよ

田中　里彩

わたしわたのしんでやまのぶりにいけるようになりましたことしはいままでで一番おおい十二回も行きました

休みの日に、よく友だちみさきさんと山のぼりに行きます。でも、何時間も歩いていると、足がいたくなります。きょ年までは「もうだめかも。」と言っていました。

でも、みさきさんに

「けしきを見ながら歩くと楽しいよ。」

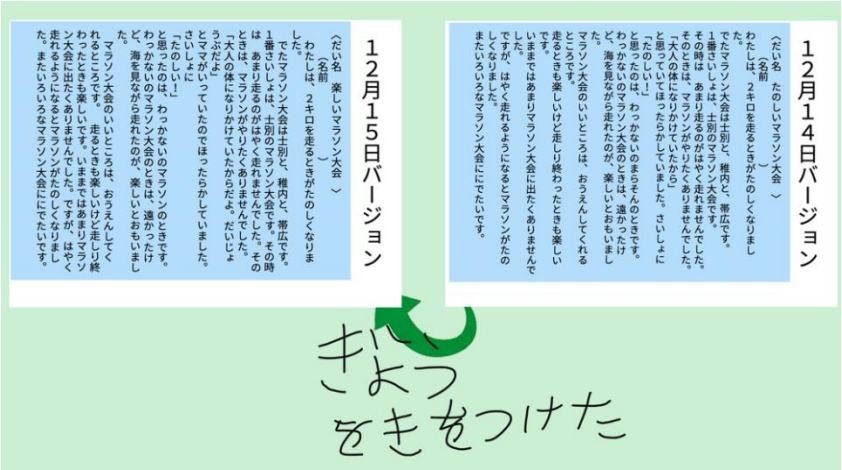
と言われ、わたしもけしきを見ながら歩くようにしてみた。すると、めずらしい花や虫をはけんするようになって、ふだん大きく見えているたてものが、ありのように小さく見えて、まわりを見ながら歩くとおもしろくて、つらかったと山を、楽しめるようになりました。

来年も、行ったことのない山にたくさんちょうせんして、山のぼりを楽しみたい。

【間違いに気付かず書き上げた教師の作文】

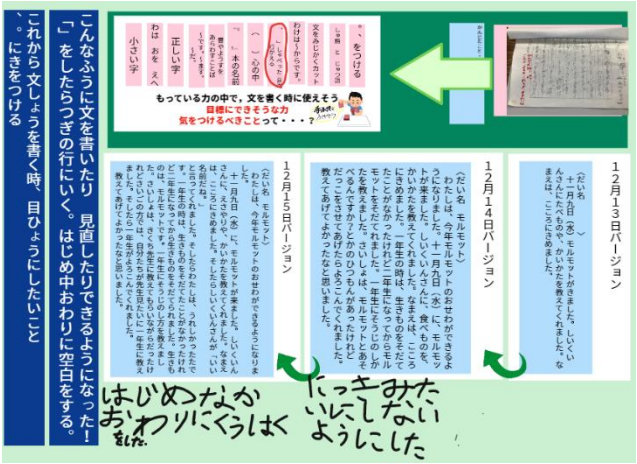
教師が間違いに気付かず文章を書き上げている様子を捉えた児童は，「繰り返し読む」「声に出して読む」「印を付けたり指を差したりしながら読む」など，読み返しの大切さを捉え，その方法について考えを出し合いました。そして教師が自ら書いた文章を声に出して読み，間違いに気付いたり，書き直したりする過程を児童と共有しました。児童はその様子をモデルとしながら，それぞれが試行錯誤して言語活動に向かっていきました。

Ｂ児は，教科書とデジタル教科書の比較や，教師の試行錯誤モデルを捉えることを通して，改行に気を付け文章を読み直し，書き直しました。かぎかっこの後の改行に加え，「はじめ・中・終わり」を意識した改行になっていることが分かります。既習事項での学びも活用しながら，本単元における「書くこと」の学びの習得につなげることができました。



【Ｂ児の文章の変容過程】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫



【C児の振り返りポートフォリオ】

児童の言語生活と言語活動をつなぐためには，言語活動を通した学びの価値を考えるとともに，新たに言語生活を切り開く必要があります。そこで，設定した目標や書いた版の履歴を概観できるICTポートフォリオを活用し，自身の文章の変遷を見つめ，新たな目標を見付けながら学習過程を循環・往還できるようにしました。

C児は，かぎかっこの後の改行を目標として文章を書き，15日バージョンで飼育員さんの言葉を付け足しています。また，教師による試行錯誤の可視化，及び友達との協働等を通して，段落の初めを１マス下げ，「はじめ・中・終わり」の文章構造を意識したことが分かります。このようにICTポートフォリオを活用することで，文章化が推敲を，推敲が次なる文章化や推敲を相互に高めながら学ぶ児童の姿を引き出すことができました。

Ⅳ　１年次の研究の成果と課題

１　研究の成果

○発達段階に合わせた一人一台端末を用いる「書くこと」の学習指導の具体化を図ることができました。

○言語生活を振り返って個人のめあてを設定したり，文章を書き上げていく過程を可視化したりすることによって，各学習過程を行きつ戻りつしながら「書くこと」の学習を実現することができました。

○教師によるモデル作文を提示したり，推敲を行う際の内言を外化したりするなど，試行錯誤を可視化することで，児童たちは推敲の大切さや方法を把握するとともに，誤脱のレベルだけでなく，「はじめ・中・終わり」の作成や文章の追加など，構成や内容の修正レベルの推敲を行うことができました。

２　今後の課題

○言語生活から設定する目標，目標と言語活動の遂行過程とが適切に合致しているか，児童一人一人の目標や組み立てメモ，下書きや推敲の状況などを細やかに見取り，個に応じた適切な指導を一層充実していく必要があります。

○書くことの学習における手書きとワープロ機能の活用について，学習の目的やそれらの効果を吟味した上で，有効な方法を選択していく必要があります。

Ⅴ　引用・参考文献

○『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』
文部科学省　東洋館出版社　平成30年２月

○『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～(答申)』　中央教育審議会　令和３年１月

○『令和４年度全国学力・学習状況調査報告書』
文部科学省国立教育政策研究所　令和４年８月

○『初等教育資料』No. 1020　「特集Ⅰ学習評価の課題と改善①」
文部科学省　令和４年５月

○『初等教育資料』No. 1021　「特集Ⅱ伝え合う力を高め自分の思いや考えを表現することのできる『書くこと』の授業改善」　文部科学省　令和４年６月

○『構想力を育む国語教育』竜田徹　溪水社　平成26年７月

○『教育科学　国語教育』No. 865　明治図書　令和４年１月

○『国語教育指導用語辞典　第五版』
田近洵一・井上尚美・中村和弘編　教育出版　平成30年11月